

◆日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた将来ビジョン (2015.11)

【基本テーマ】 人類の進歩と調和

【基本理念】 緑に包まれた文化公園

【目指すべき公園像】

緑と文化・スポーツを通じて人間の創造力の源泉である生命力と感性が磨かれる公園

※公園像実現のため、「4つの目標」と「7つの基本方針」を設定

【目標】・計画年度は、H40 (R10) 年度とする

・来園者数については、50周年にあたるH32 (R2) 年度に300万人を目標とする

日本庭園の位置づけ

(基本方針3)

緑の中で人々が憩い活動し自然の美に感動する公園

○日本の文化と美を体感できる質の高い日本庭園の整備

- ・日本庭園の魅力を維持、向上させるための質の高い管理
- ・見所となる美しい景観や園内の快適性の向上など日本庭園の新たな魅力を創出

・4つの時代(上代、中世、近世、現代)の作庭技術と考え方を示し、特に景観の優れた見所「八景」を設定



【八景：心字池】



【八景：松の洲浜】



【八景：千里庵の枯山水】



【八景：竹林の小径】

◆日本庭園改修基本計画 (2016.3)

【全体計画】

(基本方針)・園路のバリアフリー化

- ・サインのユニバーサルデザイン化
- ・トイレの安全性、快適性の確保
- ・ソフト事業の展開による新たな魅力付け

○基本方針に基づき、庭園全体の施設の整備方針を策定 (エントランス・ベンチ・人道橋・サイン・照明設備・放送設備・ミスト装置・水質浄化装置・トイレ・電気供給施設 etc)

【地区別計画】

○上代、中世、近世、現代の4地区別に基本方針を策定

○基本方針に基づき、八景別に施設整備を含む整備方針を策定



【深山の泉完成イメージ図】



【松の洲浜完成イメージ図】

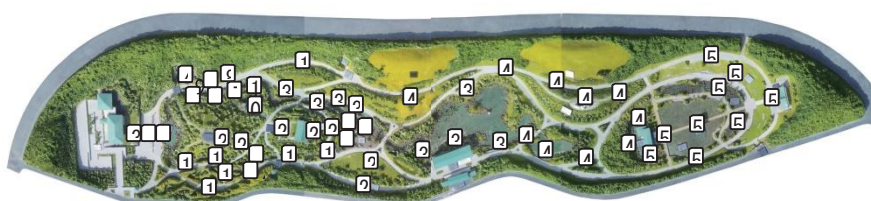
◆日本庭園景観整備方針 (2019.3 ※5ヶ年ごとに作成)

○台風の影響により被害を受けた植栽を日本庭園作庭当初の設計意図と比較し、作庭当初の見所回復を長期的(優先的)な目標に設定

・前計画(第3次計画)の段階でおよその骨格景観は整備されてきたと判断

・今回の計画では状態の維持と修景管理に特化した目標設定であったが、2018年9月に発生した台風21号の影響により庭園に甚大な被害が発生したことから目標を変更

・主要景観・見所ポイントを2008年度に設定した16景・58視点場で管理する



【16景・58視点場一覧図】

庭園改修計画

庭園整備の基本方針

景観育成計画

緑整備部会

※5名の学識者によって構成

- ◆日本庭園の整備、維持管理のあり方について議論
- ◆日本庭園の新たな魅力づけについて議論

【諮問・報告】

【答申・意見】

大阪府

- ◆「庭園改修計画」に基づく施設整設計(実施設計)の発注
- ◆「庭園改修計画」に基づく施設整備工事の発注
- ◆プロポーザル事業者の募集・決定(事業者選定委員会の運営)
- ◆プロポーザル事業者に植栽等景観創出業務(植生管理業務)の委託

プロポーザル事業者

- ◆植栽等景観創出業務(植生管理業務)の受託
  - ◆プロポーザル内容(提案内容)に基づく業務の実施
- ※実施にあたり協議が必要な内容については大阪府と協議
- 【業務受託期間】R1年7月~R6年6月(5年)

【連携】

指定管理者

- ◆植生管理を除く日常管理(施設管理、清掃等)
  - ◆各種イベントの実施(ホテルのタベ等)
  - ◆箱物施設(千里庵、万里庵、凡庵等)の運営管理
  - ◆「庭園改修計画」「景観育成計画」に基づく新たな魅力づけの取組み(自主事業)
- 【指定管理期間】H30年10月~R10年9月(10年)

上位計画

# 日本庭園の新たな魅力創出について

## ■日本庭園の概要

- 1970年博覧会開催時に政府の出展施設として整備。
- 日本の造園技術を結集して作庭された昭和を代表する庭園
- 4つの時代の庭園様式を取り入れ、時の流れを表現
  - ・上代地区：平安時代の寝殿造り庭園
  - ・中世地区：鎌倉・室町時代の茶庭、禪の庭、枯山水
  - ・近世地区：江戸時代の池泉回遊式庭園
  - ・現代地区：1970年度を現代として、当時の庭を表現
- 面積は26ha（200m×1,300m）

## ■将来ビジョン

基本方針3：緑の中で人々が憩い活動し自然の美に感動する公園  
 「質の高い管理を行うとともに、庭園の見所を分かりやすく示すなど自然と美を体感できる空間とする。」  
 ↓  
 見所となる美しい景観や園内の快適性の向上など、日本庭園の新たな魅力創出のため、平成27年度に景観や施設整備検討のたき台となる基本計画を策定した。平成28年度以降、その基本計画をベースに課題等を整理した上、具体的整備を進めている。

## ■整備の課題

- 視点がはっきりしない。
  - ・景観構成要素の点景（建築物）が少ない
  - ・主要な視点場で利用者を立ち止まらせる施設が少ない
- 施設の老朽化
  - ・物理的・機能的劣化
  - ・バリアフリー、ユニバーサルデザインへの対応が不十分
- 来園者が楽しめるソフト的仕掛けの不足
  - ・時代の特徴が感じ取りにくい
  - ・案内サインや説明サインの設置数、情報量不足
  - ・魅力的な施設（利用者サービス）の不足

## ■対応

- 八景の設置・モデルコースの設定
  - ・視点場整備による魅力の強調
- 施設の高品質化
  - ・バリアフリー化の推進
  - ・施設改修計画に基づき施設の物理的・機能的劣化の改善
- 魅力向上
  - ・園内サイン（案内・説明サイン）等の充実
  - ・ベンチの改修
  - ・ユニバーサルデザインの推進
  - ・有益な情報発信ツールの導入（AR技術、QRコード等）
  - ・新しい庭園演出やイベントによる魅力向上
  - ・視点場、休息所を拠点とした回遊ルートの設定

## ●八景及び名称の設定

日本庭園の景観の中で、特に優れた八つの景観を選び名称を整理。

**木漏れ日の滝**  
 こも び たき  
 ≪見せたい景色≫  
 ・勢いのある4つの滝と風にそよぐ柔らかなモミジが織りなす美しい風景。

**深山の泉**  
 みやま いずみ  
 ≪見せたい景色≫  
 ・平安時代の貴族が儀式や社交の場として活用していた寝殿造りの建物に作られた庭園。

**竹林の小径**  
 ちくりん こみち  
 ≪見せたい景色≫  
 ・千里丘陵の風景を再現するため設けられた、手入れの行き届いた美しい竹林を見て千里の原風景を想起してもらおう。

**心字池**  
 しんじいけ  
 ≪見せたい景色≫  
 ・緩やかに広がる芝山の大パノラマと、回遊することにより変化する心字池の壮大な景観。

**旋律の鯉池**  
 せんりつ こいけ  
 ≪見せたい景色≫  
 ・切石を自然石と見立てて石組みすることで、自然の風景を描くという日本庭園の新たな挑戦としてつくられた庭園。

**千里庵の枯山水**  
 せんりあん かれさんすい  
 ≪見せたい景色≫  
 ・禅院の方丈を象ってつくられた千里庵の建物からみる日本独特の庭園手法である「枯山水」の風景。

**松の洲浜**  
 まつ すはま  
 ≪見せたい景色≫  
 ・南北の流れが合流し、海にそそぐ河口付近の白砂青松の景色を修景したもので、枯山水の原型とされる景色を再現した風景。

**つつじが丘**  
 おか  
 ≪見せたい景色≫  
 ・群植したツツジ類が一面に咲く様子や、サルスベリの色鮮やかに咲く夏の様子などの華麗な景観。

●庭園鑑賞モデルコースの設定

インバウンドの観光客や新たな日本人来園者に日本庭園の魅力伝え、園内の景観を堪能してもらうため、八景を中心とした園内の魅力あるスポットを巡るモデルコースを設定

- 基本コースとして「八景を巡るコース」「名木めぐりコース」「茶の文化めぐりコース」「季節のおすすめコース」など9コース
- インバウンド等の短期滞在者対応の「インバウンドコース」2コース

※所用時間は、歩行2km/時として計算。

インバウンドコース

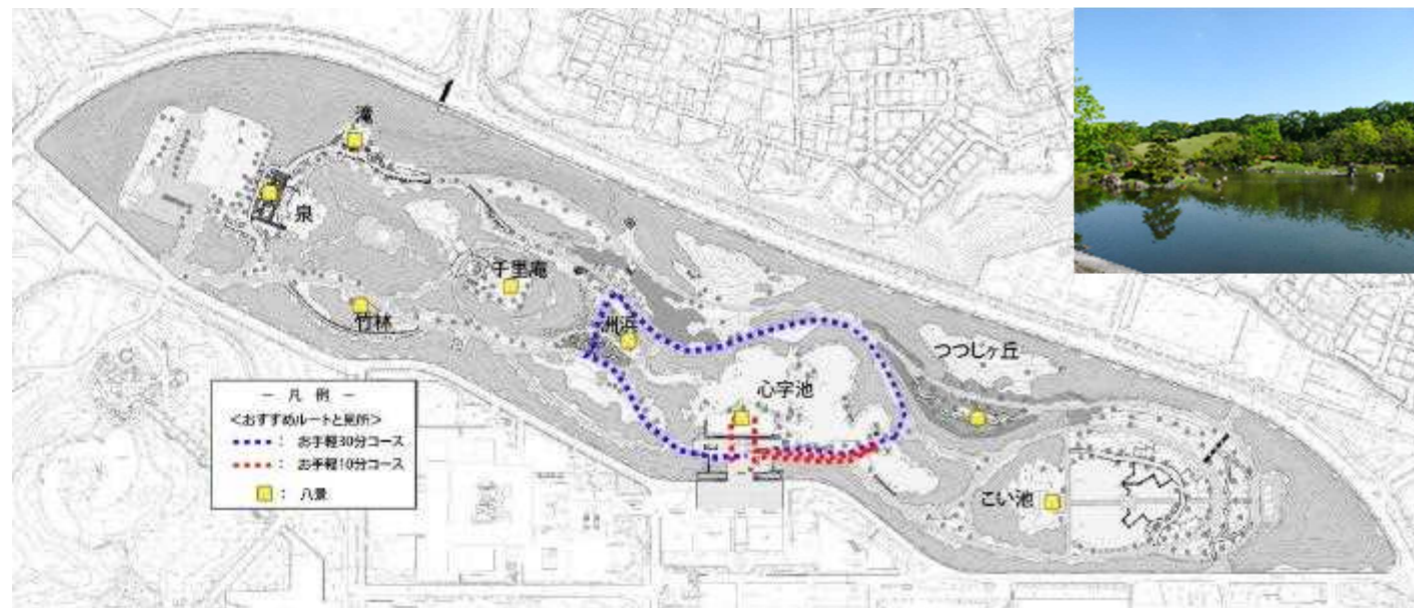
インバウンドなど短期滞在の方向けの日本庭園の一番の見所である心字池を中心に短時間で周遊するコース

・30分散策コース：約1km

中央休憩所からの築山の壮大な景観、心字池の周りを歩きながら池の景観の変化を楽しみ、最後に枯山水の原風景である洲浜の景観を堪能するコース

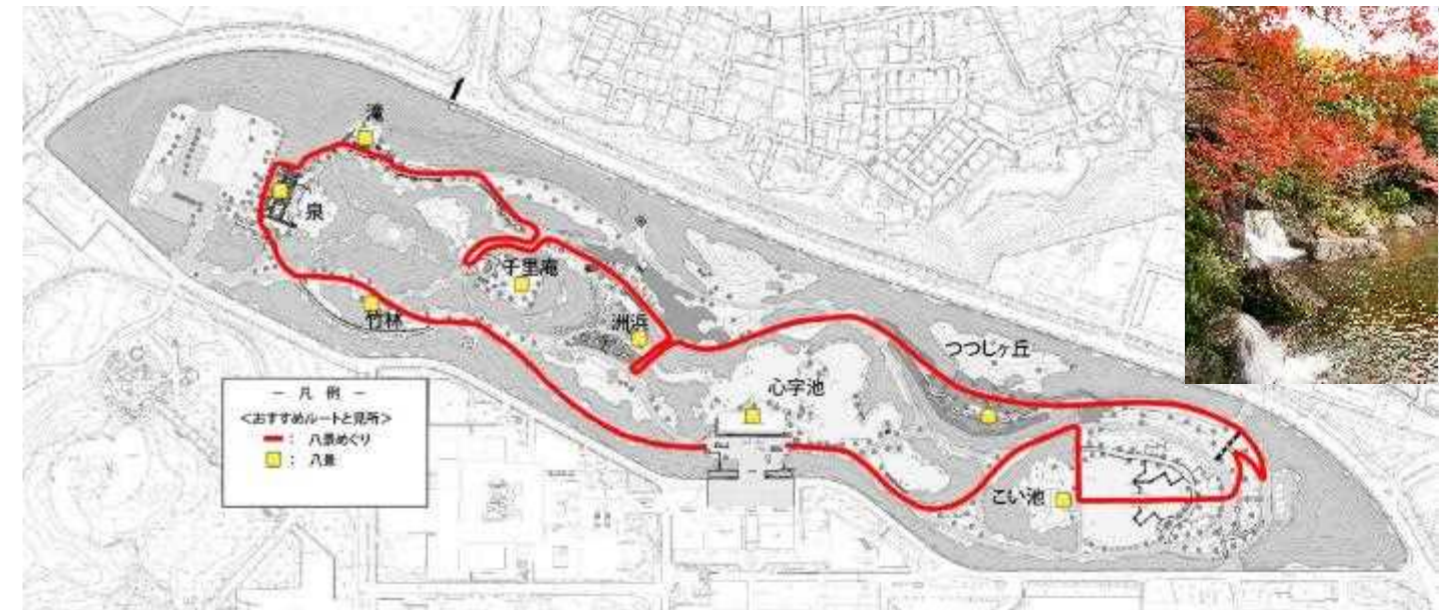
・10分散策コース：約0.3km

中央休憩所からの築山の景観を楽しみ、鯉の餌場や中の島の休憩所まで歩き、池の景観の変化を楽しむコース



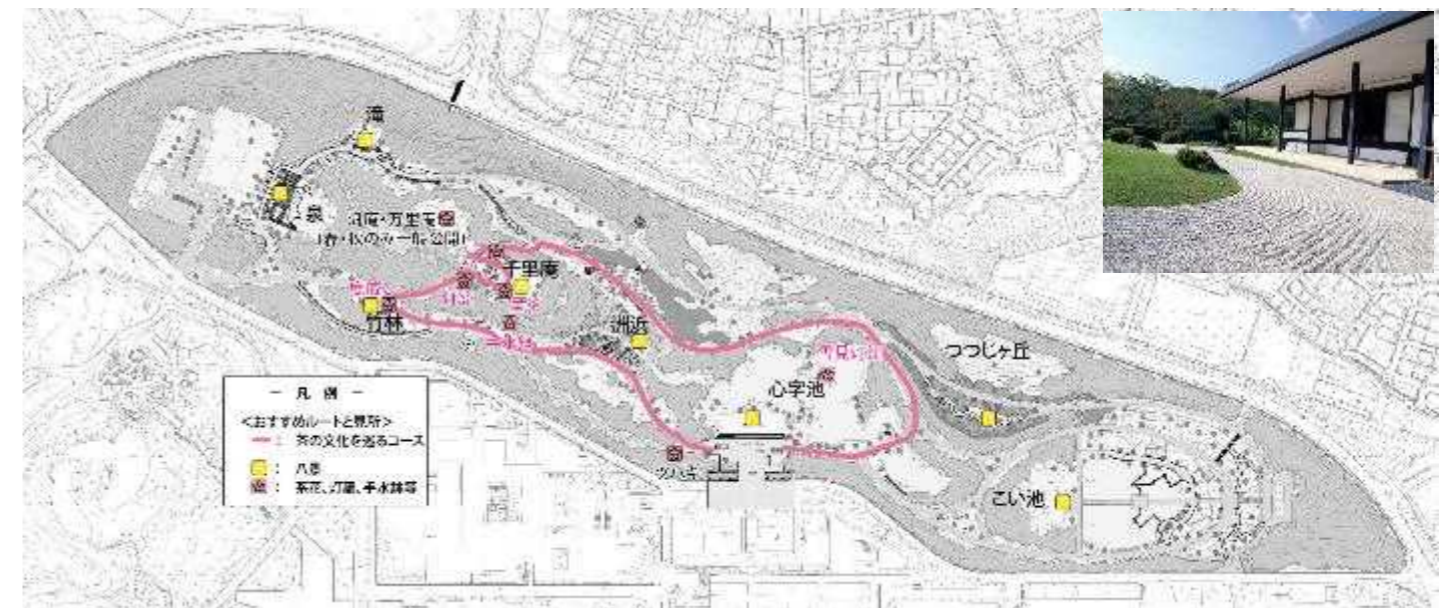
八景めぐりコース

日本庭園の代表的な景観である八景を周遊するモデルコース  
距離：約2.4km 所要時間：約1時間10分



茶の文化めぐりコース


茶の文化が発達した中世の庭を中心に巡るコース  
距離：約1.6km 所要時間：約50分



●園内サイン等の充実


■定点サイン・解説サイン（八景に各1基） **H29 整備**  
 八景の作庭意図や時代的庭園様式など八景の魅力を紹介する

・AR（拡張現実）技術を活用し、能動的に日本庭園を楽しむシステムを導入  
 季節ごとの風景  
 各時代の情景  
 庭園様式の解説など




■誘導サイン（園内各所に36基） **H30 整備**  
 施設の方向や距離を示し、来園者が迷わず目的施設等にたどり着けるように回遊を補助する

・モデルコースの誘導  
 ・トイレ等の施設案内



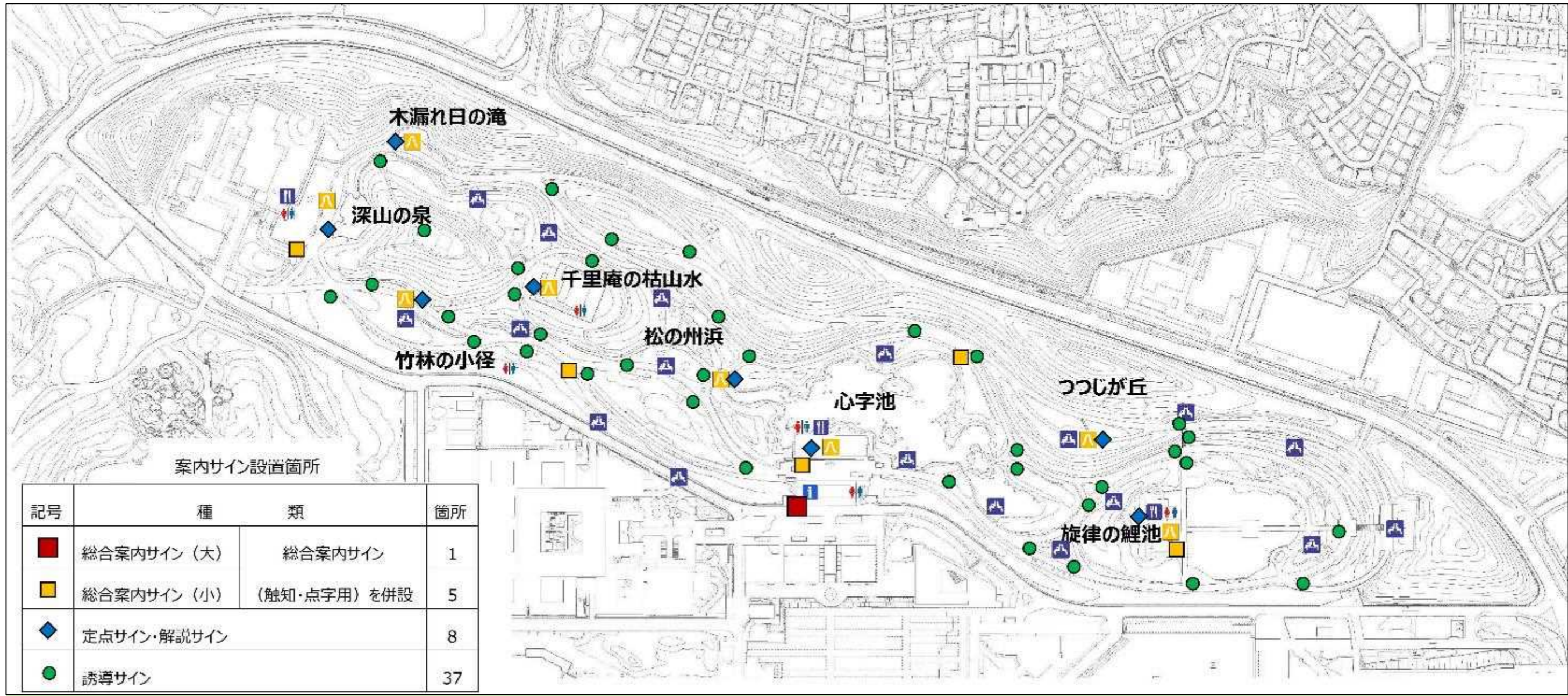
■総合案内サイン（大）（正門入り口前に1基） **R1 整備予定**  
 ・見所や花などの写真を中心としたアイキャッチとなるもの

■総合案内サイン（小）（入口近くに1基）  
 ・4つの庭園様式、八景の概要等  
 ・園内の簡易マップ



■総合案内サイン（小）（園内各所に4基） **R2 整備予定**  
 ・近辺のエリアの庭園様式等  
 ・園内の簡易マップ

※インバウンド向けにサインは、4カ国語表記を標準とし、詳細は、AR、QRを活用する。これら活用のためのWi-Fi設置工事を併せて実施。 **H30 整備**



●ベンチの改修

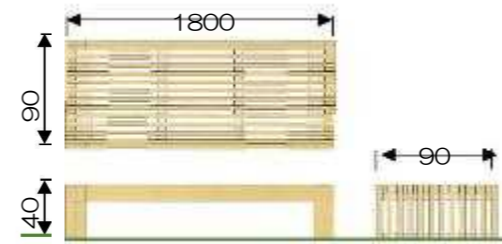
**■課題**

- ・ベンチの経年劣化が著しく、部分的に損傷しているものも多い。
- ・万博開催当時の来園者予測をベースとして、配置されたものであり、全体で325基と多い状態（10基以上並んでいる場所もあり）。
- ・庭園の見どころと配置が対応していない場所がある。

**■改修方針**

- ・新設のもの、入れ替えるもの、存置するもの、撤去するものを組み合わせて、配置する。
- ・全体で200基程度が妥当。
- ・新たな庭園の見どころとして、北側流れ沿い、松の洲浜流れ沿い、鯉池の休憩所周辺などに設置した。

ベンチ-1（縁台タイプ）



ベンチ-2（既製品）



ベンチ-3（縁台）



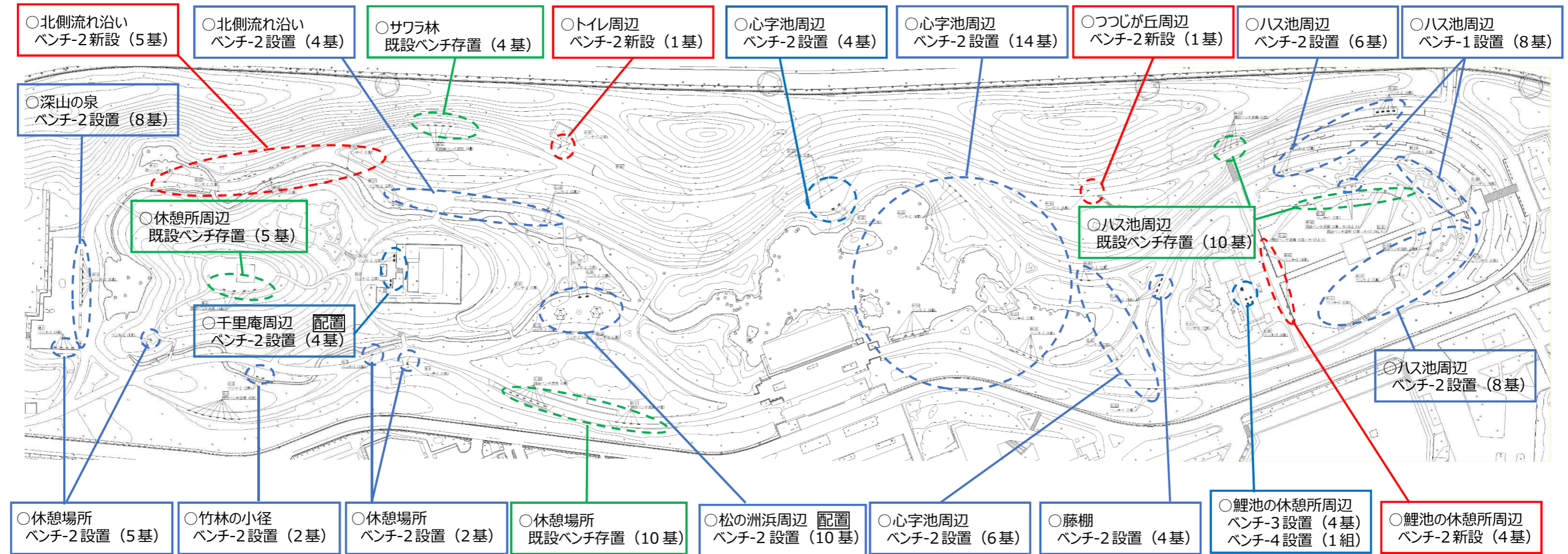
ベンチ-4（テーブル・ベンチ）



R1 整備予定

○ 新規   ○ 入れ替え   ○ 存置   配置   配置変更   現況 325 基 ⇒ 改修後 175 基 （存置 76 基、新規 99 基、撤去 249 基）

※各イラスト・写真はイメージ



●今後の審議内容

- ・改修計画の方向性（竹林の小径などの魅力向上やバリアフリー）
- ・ソフト事業の展開による新たな魅力付けについて

●日本庭園植栽等景観創出業務受託業者の募集について

- ・日本万国博覧会以来、高い品質を維持してきた万博日本庭園の魅力を維持・向上させるため、平成27年度から、民間事業者等の知識やノウハウ、技術等を活用し、質の高い万博日本庭園の景観創出業務を実施
- ・業務に求められる技術力・企画力の高さや特殊性などを鑑み、民間事業者等の知識やノウハウ等を活用して、見所となる美しい景観を創出するため、企画提案公募により受託事業者を募集
- ・業務期間：令和1年7月1日（月）～令和5年6月30日（日）
- ・受付期間：令和1年5月10日（金）～令和1年5月20日（月）
- ・令和1年6月11日（火）の選定委員会において、各委員が事業者からの提案内容を審査し、最優秀提案事業者を決定。

●最優秀提案事業者からの提案内容



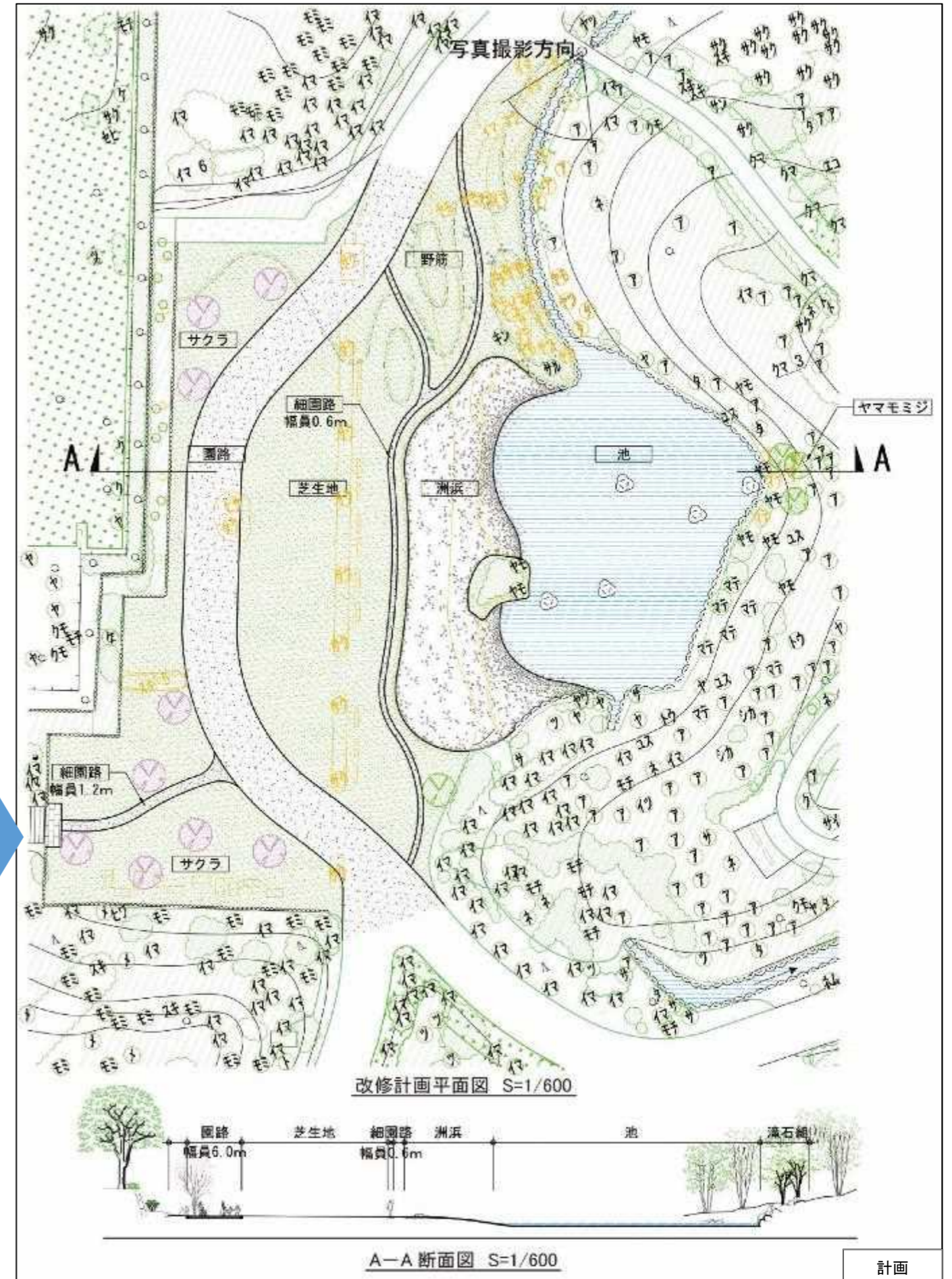
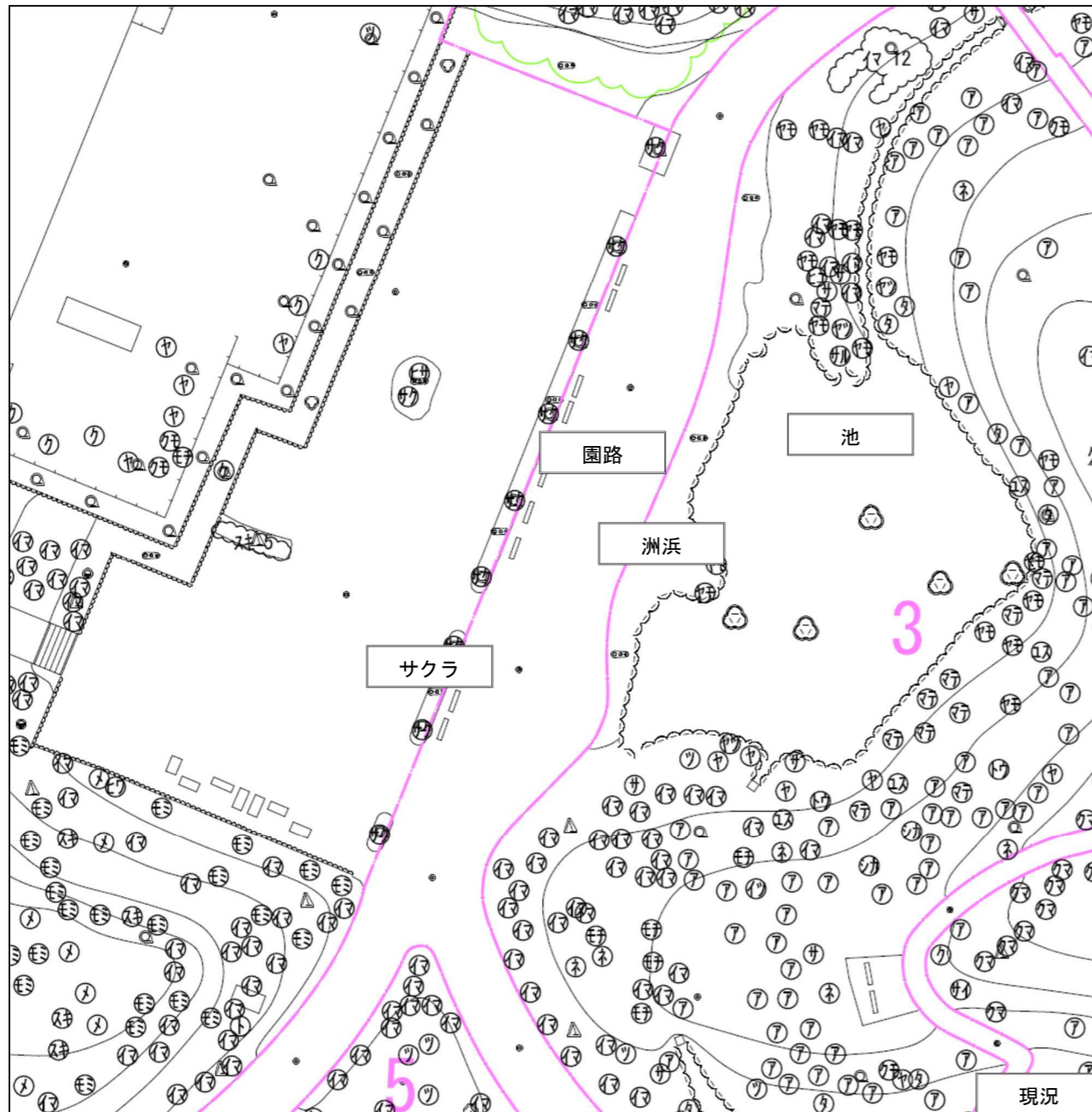
① 深山の泉の改修・修景

(修景植栽上の課題)

・洲浜は奥行きが狭く、勾配がきつい納まりとなっていたり、江戸時代に生まれたソメイヨシノが植栽されているなど、上代庭園としてふさわしくない。

(修景管理の方針)

・主園路を迎賓館側にセットバックし、洲浜の幅を広げるとともに、園路との間に芝生地を設け、上代の空間造り、奥行き感を演出する。ソメイヨシノからヤマザクラなどに植え替え。  
 ・既設アスファルト撤去や園路舗装、縁石工、給排水工などは府が実施し、植栽工、張芝工、盛土、整地工などを事業者が実施。



② サワラ林の植生回復

(修景植栽上の課題)

- ・台風 21 号の風倒被害により、サワラ林は園路から外周の構造物（モノレール等）が著しく見える箇所もあるなど、壊滅的な状況。粘土質で根が浅く、植栽基盤の改善が必要。
- ・サワラの根は深さ、幅ともに十分な発達が見られない。

(修景管理の方針)

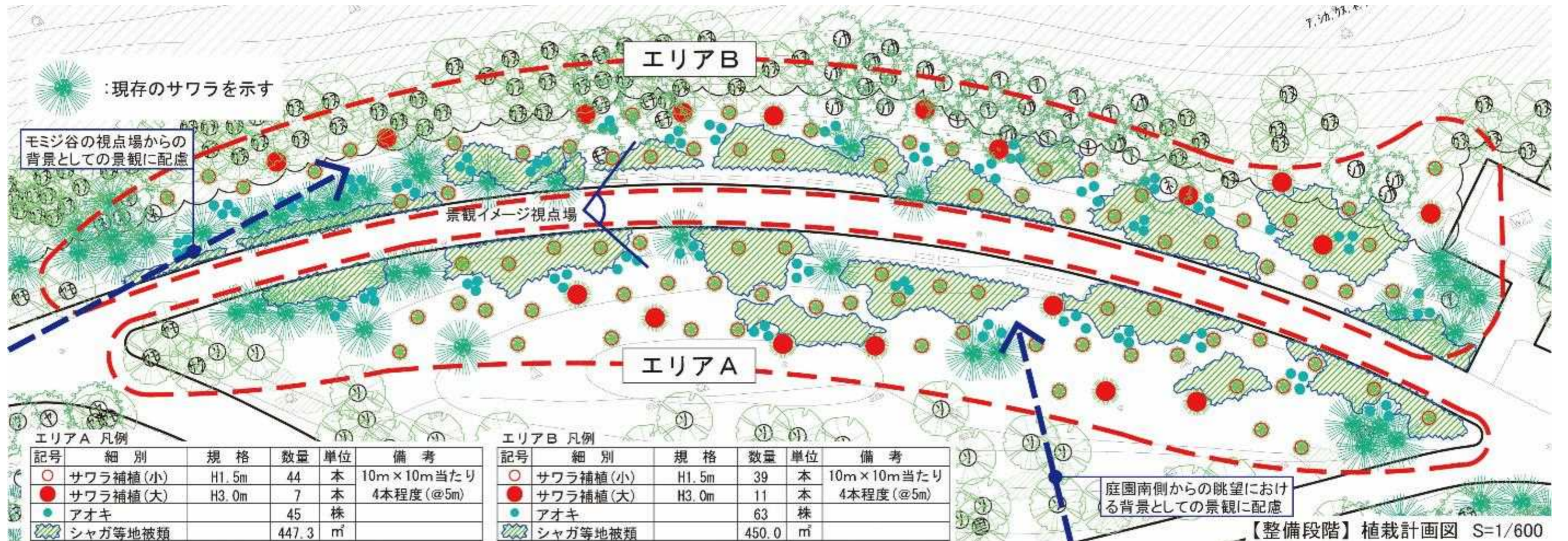
- ・清涼感ある木漏れ日のトンネル空間を再生するため、外周の構造物が著しく見える箇所についてはサワラ成木（H3.0m）を、その他の箇所にはサワラ幼木（H1.5m）を組み合わせせて配植。
- ・根株撤去など植栽基盤整備工は府が実施し、植栽工を事業者が実施する。



サワラ林現況写真



【整備段階】サワラ等補植後の景観イメージ



【整備段階】植栽計画図 S=1/600



### ③ 水生花壇の魅力向上

(修景植栽上の課題)

・水生花壇は、コウホネやハンゲショウ等の水生植物が植栽された鑑賞花壇となっているが、パノラマ状に広がる目玉景観にはなっていない。また、外周法面部に点在する斜面花壇は、修景植栽として積極的に活用できていない。

(修景管理の方針)

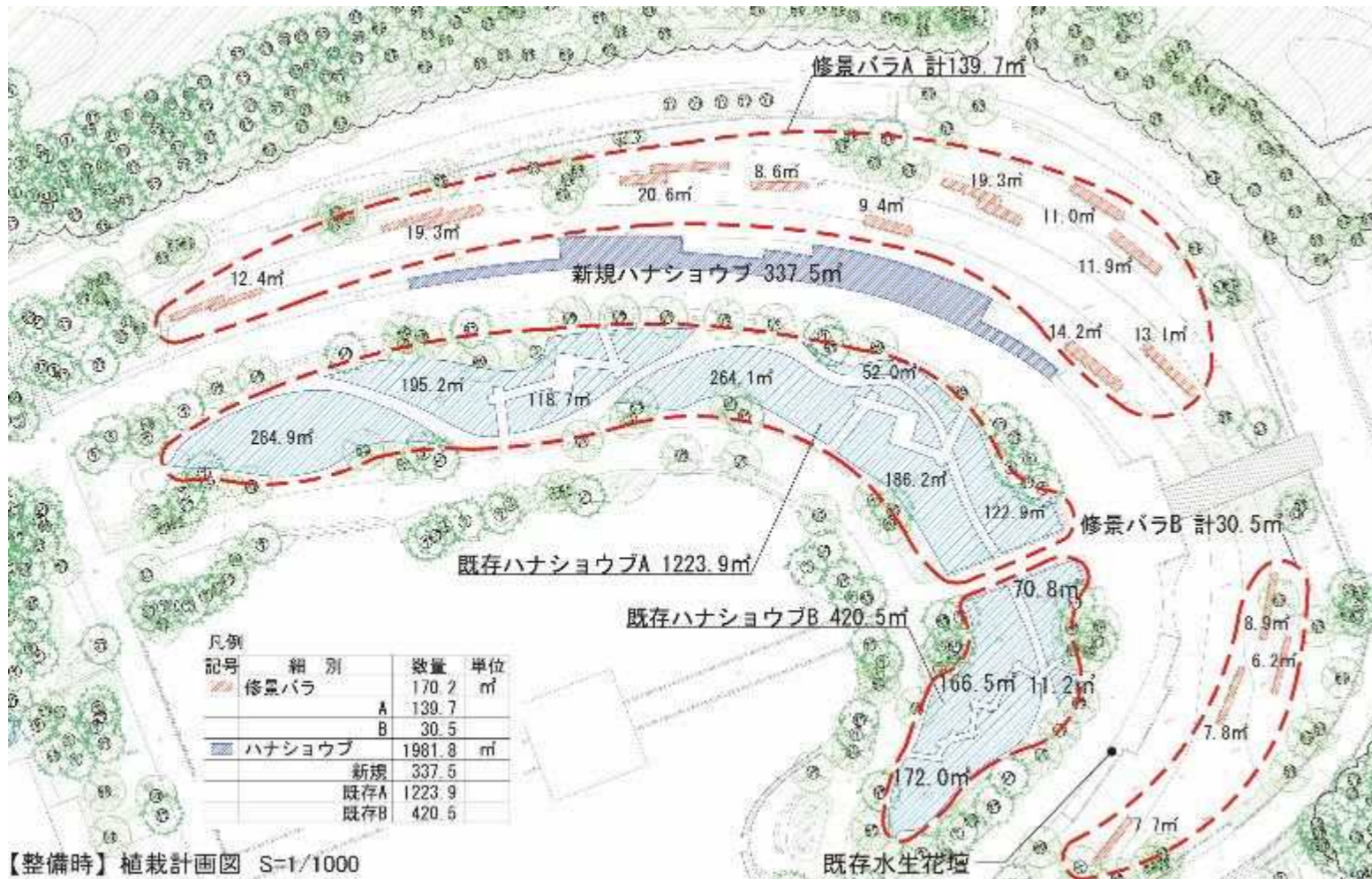
- ・花菖蒲田の拡張を図るとともに、ハスやハナショウブと花期の重なる修景バラが連続する景観を創出することで、現代庭園の新たな見所の一つとして、庭園の魅力向上を図る。
- ・水生花壇を花菖蒲田として拡張して再整備し、既存の花菖蒲田と併せて園路の両側に見ごたえのあるハナショウブの景観を創出。
- ・外周法面部の斜面花壇には、修景バラを新たに植栽して、地区の現代性を演出するとともに、彩り豊かな景観を創出。修景バラについては、テリハノイバラのような和のイメージとして、大輪でなく、匍匐性の花数の多い四季咲き性（春～秋）又は返り咲き性（春・夏または春・秋）のバラを用いる。手入れが楽で強健、病虫害に強い。



花菖蒲田及び斜面花壇現況写真



整備後の花菖蒲田及び斜面花壇の景観イメージ



テリハノイバラ